

# 越中富山 おわら風の盆写真集



(2012年版)

t. Funami





























































































































































































富山の風土は、日本海からの湿った大気が立山連峰に押し返され雨が多くどんよりとした陰鬱なイメージがあり、かつては隣県に住みながらも行ったことがなかった。

裏日本ではあるが、文化は京都の影響を残し洗練されたものが多い。戦国時代は越後の上杉と織田の軍勢が凌ぎを削り、また平安末期の源平合戦では平維盛と木曾義仲の倶利伽羅峠で戦い、さらに遡ると奈良時代万葉集の編纂をした大伴家持が国守となり地方を治めていた。また室町時代には浄土真宗中興の祖、蓮如上人が北陸で布教を行い、浄土真宗の檀家が現在も圧倒的に多い。蓮如上人は短期間のうちに衰退していた浄土真宗を復興させまた生涯に5度結婚し、23人の子供を儲けた傑物であるが、この浄土真宗の寺である聞名寺を中心に江戸時代に発展した町が八尾町である。八尾は地勢上、飛騨と越中を結ぶ交通・交易の要所であるため、江戸時代に商業が発展し、町全体が豊かな財を築いて行った。莫大な財を手に入れた町民はそれをいかに使うかということに苦心し、その結果、豪華絢爛たる神事「八尾曳山祭」や、遊興の延長でもある「おわら風の盆」の原型が自然と形成されて行った。また大正時代には各家庭に必ず三味線があったという粋な遊び心も醸造されていたのである。

おわら風の盆がどのような変遷を辿り現在に至っているかについては割愛するが、おわらの芸術性を飛躍的に高めたのは昭和3年の小杉放庵の手によるおわらの歌詞「八尾四季」と昭和4年の若柳吉三郎の振り付けによる新踊りの導入によることが大きい。当時踊りは鏡町の芸者衆が踊っていたのだが、いつの頃からか町の若者が踊るようになる。上新町の大西明氏は芸者衆から直接踊りを習った方で、所作の元となる意味を理解しないとおわらは踊れないと言う。

風の盆の魅力は写真だけでは伝えられないのだが、魅力の根底にあるものは、上記の理由により洗練された優美で静寂なものであるなので努めてそういった写真を選んで載せてみた。また一見して区別がつかないと思うが、町内で行われている、いわゆる亜流・偽物のおわらは撮らない。一度経験すると忘れることができなる体験を写真を通じて共有できれば幸いに思う。

平成24年9月27日

信州上田にて



越中富山 おわら風の盆写真集（2012年版）

<http://p.booklog.jp/book/57371>

著者： t.funami

過去の風の盆の写真: <http://blog.goo.ne.jp/guy-f> 感想

著者プロフィール： <http://p.booklog.jp/users/guy-f/profile>

風の盆については： <http://s4466.cn1.jp/asuka/> 喫茶明日香だより

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/57371>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/57371>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ